

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 30 日現在

機関番号：16101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25463246

研究課題名(和文)透析患者の歯科受診・受療行動に影響を及ぼす環境因子の解明と介入

研究課題名(英文)Elucidation of environmental factors associated with dental visits among hemodialysis patients

研究代表者

吉岡 昌美 (YOSHIOKA, Masami)

徳島大学・大学院医歯薬学研究部・准教授

研究者番号：90243708

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、まず、透析医療実施機関を対象に医科歯科連携についての全国調査を行い、血液透析患者の多くが歯科併設のない医療機関で透析治療を受けていることを確認した。歯科併設のない医療機関では、協力歯科医院の有無により日常的な歯科との連携状況が異なることも明らかにした。また、透析患者に対するアンケート調査により、患者のほとんどは医科で歯科受診を勧められた経験がないこと、定期的歯科受診をしない理由の多くは関心や意識の低さによることが明らかとなった。これらの状況を打開するため、医療者向け、患者向けリーフレットを作成し、患者が透析実施医療機関で歯科受診を勧奨され、歯科を受診する仕組みを提案した。

研究成果の概要(英文)：We performed nationwide survey on the collaborative relationship between dialysis facilities and dental facilities. It revealed that most dialysis facilities have neither an in-house dental department nor a collaborative relationship with a registered dental clinic. Registration of dental clinics appears to promote collaboration with dental facilities on a routine basis. We also investigated awareness and attitudes about preventive dental visits, and tried to clarify the barriers to visiting the dentist. We found that the common reasons dialysis patients cited for not seeking dental care were lack of concern and/or lack of awareness of the importance of preventive dental visits. Medical practitioners rarely refer dialysis patients for dental care. To promote preventive dental care, we prepared leaflets towards medical/dental professionals and dialysis patients, and proposed a system, in which medical practitioners refer dialysis patients to a primary dentist.

研究分野：口腔衛生学

キーワード：透析患者 透析実施医療機関 医科歯科連携 全国調査 歯科受診 アンケート調査 リーフレット

1. 研究開始当初の背景

透析患者の多くは、外来診療で治療を受けているにもかかわらず、生活時間の多くを治療に奪われるため、社会生活に制限を受けやすい。また治療上の理由で食生活にも制限を受けている。一方、透析患者は口腔乾燥や歯周病のリスクが高く、セルフケアのみで口腔健康状態を保つことが困難である。にもかかわらず、患者、医療者双方の認識不足や理解不足のため、歯科医療サービスを受けやすい環境が十分整っているとは言い難い。このような中、歯科疾患を併発しやすい透析患者の口腔健康状態を守るための方策を検討し、患者を中心に考えた医科歯科連携システムを構築することは、透析患者の全身の状態を維持し、患者の QOL を高めるという点で意義があると考え、本研究を企図したものである。

2. 研究の目的

本研究では透析患者の受療行動に影響を与える環境因子を明らかにし、患者がより円滑に口腔管理を受けられる社会システムの構築を目指すことを目的とした。

3. 研究の方法

【透析実施医療機関を対象とした全国調査】

全都道府県の透析実施医療機関、具体的には 47 都道府県で開設されている医療機能情報提供制度（医療情報ネット）で公開されている医療機関のうち人工透析を行っていると思われる医療機関（4,144 の病院・診療所）に、歯科口腔外科の併設の有無や日常的な歯科との連携などに関する調査用紙を郵送した。回収したデータのうち、有効であった 1,414 施設のデータについて統計学的分析を行った。

【透析患者を対象としたアンケート調査 I】

平成 25 年 9 月～平成 26 年 3 月に歯科口腔外科を併設する A 病院および併設しない B 診療所において、週 3 回の血液透析治療を受けている外来患者のうち、調査に同意いただいた 160 名を対象とした。透析治療中のベッドサイドにおいて歯科受診に対する意識や歯科保健行動について聞き取り調査を行った。

【透析患者を対象としたアンケート調査 II】

平成 27 年 10 月～平成 27 年 12 月に歯科口腔外科を併設しない C 病院において、週 3 回の血液透析治療を受けている外来患者のうち、調査に同意いただいた 84 名を対象として、透析歴や残存歯数の概況、かかりつけ歯科医院や定期受診行動の有無に加え、透析と歯周病の関係や、歯科治療への影響、口腔管理の重要性などに関する知識や認識について聞き取りによるアンケート調査を行った。

【データ解析と介入策の検討】

透析実施医療機関の全国調査および透析患者のアンケート調査で得られたデータをもとに、透析患者の歯科受療行動に影響を与

える環境因子を解析した。このうち介入可能な因子について改善策を検討した。試案作成においては実効性を担保するため、透析病院に勤務している歯科専門職、透析治療に携わっている診療スタッフ、透析患者を受け入れる側の歯科医療職を含めたメンバー構成で検討委員会を立ち上げ、介入方法のブラッシュアップを重ねた。

【介入のツールとしての媒体作成】

介入策として実現可能性が高く効果が高いと見込まれる介入のツールとして、透析患者の口腔管理に関する医療者向けリーフレットと患者向けリーフレットを作成し、歯科医療従事者および透析医療実施機関に送付し、患者啓発への協力を要請した。

4. 研究成果

【透析実施医療機関を対象とした全国調査】 調査結果の詳細（全体・病床規模 8 群別）

(1) 医療機関の属性（病床数・歯科/歯科口腔外科併設の有無・透析患者数）

病床数の規模の内訳

病床規模の小さい医療機関では歯科/歯科口腔外科を併設していない医療機関がほとんどであり、病床数が大きくなるにしたがい歯科/歯科口腔外科を併設する割合が大きかった。

外来にて血液透析を行っている患者数

概数ではあるが調査対象となった医療機関で血液透析を受けている患者は 10 万人を超えており、これは全国の慢性透析療法を実施している患者数の約 3 分の 1 に該当した。

今回調査対象となった医療機関で外来血液透析を受ける患者の約 8 割は歯科併設のない病院/診療所に通院していることが分かった。また、歯科併設なしの医療機関に限ってみると、外来で血液透析を受ける患者の約 4 割は病床数 19 以下の医療機関（診療所）に通院しており、9 割近くは病床数 200 以下の病院/診療所に通院していることが分かった。

(2) 歯科専門職の雇用の状況および今後の配置の見通し

歯科専門職の雇用の状況

当然のことながら、歯科/歯科口腔外科を併設していない医療機関で歯科専門職を雇用する機関は希であった。また、歯科/歯科口腔外科を併設している医療機関でも歯科専門職の数は少なく、300 床以下の群では雇用されている歯科医師数が平均 2 名未満であった。

歯科専門職の配置の見通し

歯科/口腔外科を併設している医療機関で全体の 48.5%、歯科/口腔外科を併設していない医療機関では全体の 93.3%が「検討する見込みがない」と答えた。歯科専門職の雇用拡大については厳しい社会状況にあると考えられるものの、歯科/口腔外科を併設している医療機関では 16.9%が「歯科専門職の増員もしくは新規雇用を検討したい」と答えているこ

とから、一部の医療機関では歯科専門職のニーズが高まっていることも示唆された。

(3) 歯科医療機関との連携の状況および今後の意向

歯科医療機関との日常的連携の状況

無床診療所では日常的に連携している歯科医療機関があると答えた医療機関は3割に満たなかった。また、歯科/歯科口腔外科併設なしの医療機関では、日常的に連携している歯科医療機関ありの割合は5割に満たなかった。

日常的な連携の内容について調査した結果、「患者情報について個別に照会」あるいは「口腔衛生管理や歯科治療について患者を紹介もしくは往診を依頼」といった個別の連携がほとんどであり、集団や組織の間の連携は少ないことが分かった。今後は連携を日常化するしくみ作りが必要であることが示唆された。

透析病院と地域歯科診療所の連携を推進するためにはまず、地域の歯科診療所間で十分なコンセンサスを得る必要があり、個別の病診連携でなく地域全体で協調的に取り組む必要があるのではないかと考えられた。

歯科との連携についての考え方

今後の歯科との連携については前向きな回答をする医療機関が多かったが、「連携は必要ない」と答える医療機関も歯科/歯科口腔外科を併設している医療機関で5.1%、歯科/歯科口腔外科を併設していない医療機関では18.9%あった。また、歯科/歯科口腔外科を併設していない診療所(病床数0-19)では4分の1近くが連携の必要性を感じていないことが分かった。

調査結果の詳細(歯科/歯科口腔外科を併設していない医療機関・病床規模3群別)

(1) 協力歯科医院および日常的連携の状況

協力歯科医院の有無と日常的に連携している歯科医療機関の有無との関連

「協力歯科医院あり」の割合は病床数0-19の群では19.0%、病床数20-200の群では34.8%、病床数201-の群では40.1%と病床規模が大きいほど高いことが分かった。一方、「日常的に連携している歯科医療機関あり」の割合は病床規模が大きいほど高いとは言えないことが分かった。また、いずれの群でも「協力歯科医院あり」と「日常的連携あり」との間には有意な関連性が認められた。(カイ二乗検定： $p < 0.01$) 具体的には、「協力歯科医院あり」と答えた病院/診療所の83.6%が「日常的に連携している歯科医療機関あり」と答えた。以上のことから、日常的な医科歯科連携を推進するためにはまず協力歯科医院を持つことを進めることが有効な方策であると考えられた。

(2) 歯科との連携についての意向

協力歯科医院の有無で群分けして調べた結果、協力歯科医院を持たない医療機関は歯科との連携について消極的であり、「連携は

必要ない」と答えた割合が約2割から3割あることが分かった。一方で、協力歯科医院を持たない群で「連携を開始したい」と答えた医療機関は「連携は必要ない」と答えた医療機関を大幅に上回っていることも明らかとなった。さらに、「連携を開始したい」と「さらに連携を推進したい」と答えた機関を合わせると、歯科との連携を前向きに考えている医療機関はすべての群において半数以上を占めることが分かった。

(3) 透析患者の歯科受診・受療行動推進のための方策に対する期待度

病床規模別

透析患者の歯科受診・受療行動を推進するための方策を5つ挙げ、それぞれの方策に対する期待度を4段階で回答してもらった。その結果、病床規模にかかわらず「透析病院への歯科専門職の雇用促進」は期待度が最も低かった。これは歯科専門職の雇用そのものの有効性が低いと言うよりも、雇用推進が現実的に難しい現状を示しているものと思われる。いずれの病床規模でも期待度が高かったのは「透析病院と地域歯科診療所との連携強化」と「透析病院スタッフに対する啓発」であり、これらは透析医療機関において、効果が期待できる方策であることが示唆された。

協力歯科医院および日常的連携の有無別

各方策に対する期待度を協力歯科医院の有無で群分けし、各平均スコアの差についてマンホイットニーU検定を行った。なお、スコアは「期待できない」を1、「どちらかと言えば期待できない」を2、「どちらかと言えば期待できる」を3、「期待できる」を4として計算した。その結果、いずれの病床規模においても、「日常的連携ありの群」では「なしの群」に比べて「透析病院と地域歯科診療所の連携の強化」に対する期待度が有意に高かった。このことから、すでに日常的連携が図れている医療機関ではその有効性を感じており、既存の連携を強化することにより、透析患者の歯科受診・受療行動を推進できる可能性が示唆された。

【透析患者を対象としたアンケート調査1】

調査結果の詳細(全対象者)

(1) 対象者の属性

通院先および透析時間帯

透析時間帯	A病院	B診療所	合計
午前	31	30	61
午後	41	27	68
夜間	31	-	31
合計	103名	57名	160名

年齢・性別・人工透析(血液透析)を始めてからの期間

全対象者160名の平均年齢は 64.8 ± 11.5 歳(min-max: 29-92歳)、男性100名、女性60名、血液透析を開始してからの期間は平均 9.9 ± 8.4 年(min-max: 0.3-38年)であった。

就業状況

就業している者は 50 名 (31.3%) であり、うち半数以上は常勤であった。

(2) 歯科受診を勧められた経験・口腔健康管理に対する意識

医科受診の際に“歯科受診”を勧められた経験

受診勧奨経験が“ある”と答えた者は 6 名で全体の 3.8% に過ぎなかった。そのうち 1 名は透析治療開始時に、2 名は心臓疾患を診てもらっている医師に勧められたと答えた。

“透析しているからこそお口の健康管理”が大事と思うか

透析していることをリスクと捉えて口腔管理が大事と考えている者は、38 名、全体の 23.8% であった。但し、透析とは関係なく口腔管理が大事と考えている者は含まない。

その理由としては「水分が取れず口の渇きが強くなったと感じるから」、「本に歯が原因で腎臓が悪くなると書いてあったから」、「透析中に歯が痛み、困ったから」、「透析中、食べることがあるのでその分気にしている」、「むし歯があると移植できないと知ったから」、「透析すると歯が弱ると聞いたから」、などの答えがあったが、“歯周病が全身に影響する”という知識を得て、口腔管理を大事と考えているという回答が最も多かった。

(3) 口腔内の状況

残存歯の本数・義歯の使用状況

歯の本数は“20 本以上”が 63.1%，“10-19 本”が 15.6%，“1-9 本”が 9.4%，“0 本”が 11.9% であった。義歯は“使っている”が 31.3%，“ない”が 60.6%，“使っていない”が 8.1% であった。

歯や口の悩み

歯や口の悩みで気になることとしては、“ものがはさまる”が 65.0% と最も多く、次いで“口が渇く”(41.3%)，“口臭がある”(31.9%) がこれに続いた。その他としては“歯が浮く”、“舌が荒れる”、“やけどをよくする”などがあつた。

(4) 歯科受診・受療行動

かかりつけ歯科医院の有無・定期歯科健診の受診状況・最後に歯科受診した時期

対象者の 77.5% がかかりつけ歯科医院を持つと答えたが、定期歯科健診を受けている者は全体の 30.0% に過ぎなかった。また、定期歯科健診は受けていないものの、1 年以内に歯科を受診した者が少なからずいることが分かった。

歯科受診するときの状況

歯科受診するのは“症状があるとき”と答えた者が最も多く、全体の 58.1% に上った。また、全体の 7.5% は“症状があっても行かないことがある”と答えた。

定期的に歯科受診しない理由

定期的に歯科受診しない理由としては、

“必要ない”、“めんどろ”が最も多く、3 割を超えていた。次いで“時間が取れない”、“精神的に負担(怖い・痛い・嫌)”が続いた。その他の回答としては、“歯医者に行くといろいろ言われる”、“治療が長引くのが嫌”など、歯科医療に対するネガティブなイメージが定着していることが要因となっているケースもあった。

透析患者が定期的に歯科を受診しやすくするための方策

透析患者の定期的歯科受診推進の方策を探るため、定期健診している人には「どうして定期健診するようになったか」、定期健診していない人には「どうして受診したくないか」ということを含めた質問を行った。

その結果“予約”に関する回答が多く、“来院毎次の予約をきちんと取る”もしくは“ハガキで次回予約の連絡が届く”ことが定期健診の定着に繋がっていることが伺えた。また、多くの患者は“治療がきっかけで歯科受診をしたが、そこで定期健診を勧められ、定期健診するに至った”と答えており、逆に、定期健診していない患者では“歯科医院で定期健診を勧められたことがない”という者が少なくなかったことから、歯科医療者側の働きかけの有無が患者の定期健診を大きく左右することが明らかとなった。

また、透析患者の中には通院に“人的援助”を必要とするケースもあり、“透析”のために送迎は頼めても、“緊急性の少ない歯科受診”のために送迎は頼みにくいという患者もいた。実際、今回アンケート調査の対象となった歯科併設病院で透析治療を受けている患者のかかりつけ医院の約 28% が院内の歯科口腔外科であった。“同一病院の安心感”はあるにしても“アクセスのしやすさ”も定期健診に結びつきやすい要因になっているのではないかと考えられた。透析医療機関に歯科口腔外科を新規に開設することは容易なことではないが、今後近隣の歯科診療所と提携して患者の歯科受診を勧奨する仕組みを作ることは有効ではないかと考えた。

調査結果の詳細(有歯顎者 141 名)

(1) 各質問項目間の関連性の分析 - “透析しているからこそ口腔管理が大事と思う”、“かかりつけ歯科医院あり”、“定期歯科健診を受けている”との関連性(カイ二乗検定) -

透析患者が“透析しているからこそ口腔管理が大事と思う”、“かかりつけ歯科医院を持つ”、“定期歯科健診を受けている”ことによつたような要因が関与しているかを調べるため、各質問項目の回答とこれら 3 問に対する回答の間の関連性についてカイ二乗検定を行った。その結果、“透析しているからこそ口腔管理が大事と思うか”と“かかりつけ歯科の有無”、“定期歯科健診受診の有無”は相互に有意に関連していることが分かった。“使っている義歯があること”が“定期健診”と関連することについては、義歯があること

で必然的に歯科受診の機会が増え、そこで定期健診を勧奨されることなどにより結果的に定期受診に繋がっているのではないかと考えた。また、かかりつけ歯科の有無と定期歯科受診の有無は有意に関連しているものの、かかりつけ歯科があっても定期健診しない者が約6割に上ることが分かった。

(2) “定期歯科健診受診”に影響する因子の解析(2項ロジスティック回帰分析)

「定期歯科健診を受けている」ことによつてどのような要因が関与しているのかについて、2項ロジスティック回帰分析を行って調べた。その結果、“口腔管理が大事と思う”、“歯の本数概数が多い”、“使用している義歯がある”、“かかりつけ歯科がある”、“歯ぐきの腫れ出血の自覚症状がある”項目が有意に関連していることが明らかとなった。“歯の本数概数が多いこと”と“使用している義歯があること”は相反するよう見えるが、定期歯科健診で主に対象となるのは残存歯のう蝕や歯周病管理であり、歯の本数が少ない状況では、相対的に定期管理の動機付けが弱くなることも考えられる。但し、前述したように、使用する義歯がある人は義歯がない人に比べ、義歯調整などの目的で歯科を受診する機会が多くなると考えられ、歯科医院で定期管理を勧められる機会も増すのではないかと考えられる。

“透析しているからこそ口腔管理が大事と思うこと”、“かかりつけ歯科を持つこと”については、残存歯数の多寡、義歯の有無にかかわらず、すべての人に啓発することが可能である。また、今回の分析結果から“定期健診を受けること”が“歯ぐきの腫れ出血のない状態を保つこと”に繋がることが示唆されたため、今後は透析患者に対して“透析治療(を受けている状態)は口腔の健康にとってもリスク(の高い状態)であること”、“口腔の健康は全身の健康に影響すること”をすべての医療者から発信し、“かかりつけ歯科を持ち定期口腔健康管理をすること”によって“口腔の健康状態を保つこと”を広く啓発していく必要があると考える。

【透析患者を対象としたアンケート調査II】

対象者84名の平均年齢は68.9歳、透析年数は 6.4 ± 6.3 年であった。調査の結果、「虫歯や歯周病は全身に影響する」、「普段の口腔管理が大事」と認識している者は9割を超えているにも関わらず、定期歯科受診している者は4割未満であった。また、「血液透析患者は抜歯などの外科処置に配慮が必要」と認識している者は60.7%、「腎移植にはう蝕や歯周病の治療が前提である」と認識している者は66.7%と、他の項目に比べ認知度が低かった。次に、歯のある者64名を定期受診している群としていない群に分け比較した結果、定期受診群では「かかりつけ歯科医院を持つ」者が多く、「歯科での予防管理は快適」と認識している者が多かった(カイ二乗検定、

$p < 0.05$)。また、透析歴5年未満群は5年以上群と比べて定期歯科受診している者の割合が大幅に低かった(カイ二乗検定、 $p < 0.01$)。血液透析では抗凝固薬を使うため抜歯などの外科的処置に特別の配慮が必要であるという我々医療従事者が常識と考えていることが患者に必ずしも浸透していないことが明らかとなった。また、透析歴が短い群では定期歯科受診の割合が低いことから、透析導入時の体調の不安定さや生活時間の変化によって、歯科受診行動が制限される可能性も考えられた。したがって、今後は透析患者の特殊な状況に配慮できるかかりつけ歯科の体制を整えることも課題であると思われる。

【介入策の検討と介入のツールとしての媒体作成】

透析患者のアンケート調査Iを行った透析実施医療機関の医師、看護師、臨床工学技士、歯科医師、歯科衛生士を含むメンバーにて、「透析患者の歯科受診を勧めるための検討会」を開催した。その結果、“透析実施医療機関のスタッフが歯科受診を勧めること”や“透析患者の口腔管理について院内スタッフの研修や勉強会を行うこと”が、実現可能性、有効性共に高いことが示唆された。また、透析患者に対するアンケート調査の結果から、医科で歯科受診を勧められた経験がほとんどないこと、かかりつけ歯科医院はあるが、定期的な受診ができていない患者が多いこと、予防的歯科受診に対する患者の意識が低いこと、また、症状があつて受診した歯科医院でも予防管理を勧められたことがないこと、などが明らかとなりました。以上の結果を踏まえ、まず、受入れ側となる歯科医療職と患者に常に接している医科スタッフの間のコンセンサスを得るための媒体として『医療者向けリーフレット』を作成し、この内容に沿った『患者向けリーフレット』を用いて患者さんに受診を勧めていただくことができたかと考えるに至った。コンセプトは「透析患者の診療を担当する医療者(医科歯科含む)が手元に置きたいと思うような簡単リーフレット」と「透析患者さんに伝えたい簡単リーフレット」である。内容と想定する利用法は下記の通りとした。

内容

『医療者向け』: 人工透析の基礎知識、透析患者に起こりがちな口腔トラブル、歯科治療に際して注意すべき事項、口腔管理の基本、人工透析患者に関する最近の知見、まとめ～透析患者に伝えてほしいこと～
『患者向け』: 透析を受けている人は虫歯や歯周病になりやすい?! 重症の虫歯や歯周病は全身に悪影響を及ぼす、血液透析を受けていると抜歯などの外科処置には特別の配慮が必要、血液透析を受けている方へ定期的歯科受診を勧める理由

想定する利用法

『医療職向けリーフレット』: 医療者が、

随時、医学知識を確認するのに使う、この内容に沿って透析患者の口腔管理を勧奨する、新規スタッフの研修に用いる

『患者向けリーフレット』：透析医療機関の医師等が患者に手渡し、口腔管理について啓発、すでに透析を受けている患者については透析室で患者に配付

配付先

徳島県歯科医師会所属の425 歯科医師、および徳島県下の35 透析医療機関

歯科医師会員には、リーフレットに関するアンケート調査を依頼したところ、12.9%の回答を得た。『医療者向け』では72.7%が“とても役立つ”27.3%が“役立つ”と回答しており、自由記載欄には“基礎知識や注意事項を再確認するのに役立つ”といった意見が多かった。一方、『患者向け』でも90.9%が“とても役立つ”もしくは“役立つ”と答えたが、9.1%は“あまり役立たない”と答えた。その意見としては“内容が難しい”、“年齢的に読まないと思う”、“これを見たからと言って歯科を受診しようとは思わないと思う”などであった。我々は、徳島県内の歯科医師会員に郵送したのち一定期間をおいて、徳島県内のすべての透析実施医療機関に、通院する透析患者数を想定した数の『患者向け』と適当数の『医療者向け』を送付した。この際、本リーフレットの作成の趣意書を添えて、透析患者への配付を依頼した。リーフレットは透析医療機関で患者の歯科受診を勧奨するためのツールとしての活用を意図しており、実際にこれを持って歯科受診した例もあると報告を受けているが、実数については把握できておらず今後の課題と考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

【原著】

- 1) Yoshioka M, Shirayama Y, Imoto I, Hinode D, Yanagisawa S, Takeuchi Y: Current status of collaborative relationships between dialysis facilities and dental facilities in Japan: results of a nationwide survey *BMC Nephrology* 16:17 DOI 10.1186/s12882-015-0001-0, 2015. 査読有
- 2) 吉岡昌美 白山靖彦 井本逸勢 柳沢志津子 日野出大輔: 歯科併設のない人工透析実施医療機関における医科歯科連携. *口腔衛生会誌* 65: 348-353, 2015. 査読有

〔学会発表〕(計 6 件)

- 1) Yoshioka M, Shirayama Y, Imoto I, Hinode D, Yanagisawa S, Takeuchi Y, Yamasaki A, Bando T: Factors associated with regular dental visits among hemodialysis patients 第65回日本口腔衛生学会・総会, 2016年5月27-29日東京医科歯科大学(東京都・文京区)
- 2) 吉岡昌美 中野敦子 橋本寛文 白山靖彦 柳沢志津子 竹内祐子 日野出大輔: 透析患者の口腔管理に関する意

識調査 第13回日本口腔ケア学会総会・学術大会2016年4月23-24日, 京葉銀行文化プラザ(千葉県・千葉市)

- 3) 吉岡昌美 板東高志 横田成司 横山希実 日野出大輔: 透析患者の歯科受診推進のための介入策の検討 医療職および患者向け指導用媒体の作成 第26回近畿・中国・四国口腔衛生学会, 2015年9月27日, 山口県歯科医師会館(山口県・山口市)
- 4) 吉岡昌美 柳沢志津子 日野出大輔: 人工透析実施医療機関での医科歯科連携の実態調査 第60回日本透析医学会, 2015年6月27日, パシフィコ横浜(神奈川県・横浜市)
- 5) 吉岡昌美 井本逸勢 白山靖彦 柳沢志津子 金川裕子 日野出大輔: 歯科併設のない人工透析実施医療機関における医科歯科連携 第64回日本口腔衛生学会・総会, 2015年5月29日つくば国際会議場(茨城県・つくば市)
- 6) 吉岡昌美 板東高志 横田成司 森山聡美 日野出大輔 白山靖彦: 透析患者の歯科受診・受療行動に影響を及ぼす環境因子の検討 第63回日本口腔衛生学会・総会, 2014年5月31日熊本市民会館崇城大学ホール(熊本県・熊本市)

〔その他〕

徳島大学大学院医歯薬学研究部・地域医療福祉学分野・口腔保健福祉学分野 HP

<http://www.tokushima-u.ac.jp/dent/shirayama/research/> にてリーフレット掲載予定

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉岡 昌美 (YOSHIOKA, Masami)
徳島大学・大学院医歯薬学研究部・准教授
研究者番号: 90243708

(2) 研究分担者

白山 靖彦 (SHIRAYAMA, Yasuhiko)
徳島大学・大学院医歯薬学研究部・教授
研究者番号: 40434542

井本 逸勢 (IMOTO, Issei)
徳島大学・大学院医歯薬学研究部・教授
研究者番号: 30258610

日野出 大輔 (HINODE, Daisuke)
徳島大学・大学院医歯薬学研究部・教授
研究者番号: 70189801

柳沢 志津子 (YANAGISAWA, Shizuko)
徳島大学・大学院医歯薬学研究部・講師
研究者番号: 10350927